文化乙丑新版

武家之馬作

(十)西宮版

下

孝宝勢法

晋稚婦列

親雄公猪之宵茶

上

へ13
2946
149

149
へ13 特
2946
149

老實製法 滑稽妙劑 親雖謄寶藥

製本所 西宮新六

游戯堂製

序

大道廢れて仁義あり。大通濁りて野暮登場。須日報雖乃青本行ゝ支赤本は病昔ゝ花見踊みあらし或ゝ定紋の頭字を看て強縮乃始末紙想ひ或ハ前後ゝ二編と求めて善惡ゝ行狀を知る。意 御江戸の名物ゝ戯作の道ゝ既ゝ荒季に及んで。兎人皆歌詩乃稗史に醉ゝ吾獨醒ゝ。滄浪の水雜吹とは。ゝ三年毫ゝ採ゝ。ゝ屈原ゝ聲色更に切落ゝ。おちび。

さればく監にすべて板元どん〳〵との内役の膏薬に等し。其謂は時花物ハ穢り安く。那中も簡ならぬたり出て。義理にも法にもかまはず捨。新作の趣くかはれどもまゝ孔明が智恵をも揮って考へらる。青本の寓言ハいや古風な洒落をいふや否唯当時よく売れる敵討だから鎮まる家此戯作者なども大屁も放ちかけ其でも此でもまた敵討仇を討ちてまた討つ舞台。絵ぐさの看ても上首尾なから一部ハ段取是が流行といふものハ八ツ時あたりれく〳〵室ひとつ趣意ハ表しも所が己が粗拙の負惜みに。敵討の本よりを遂に野暮の至りと夷狄に表して夷狄を御れ作る場所に従ひ。敵討がすみるから人真似として敵討と。板元が勧にまかせて久しぶりにて筆を採まじ若實

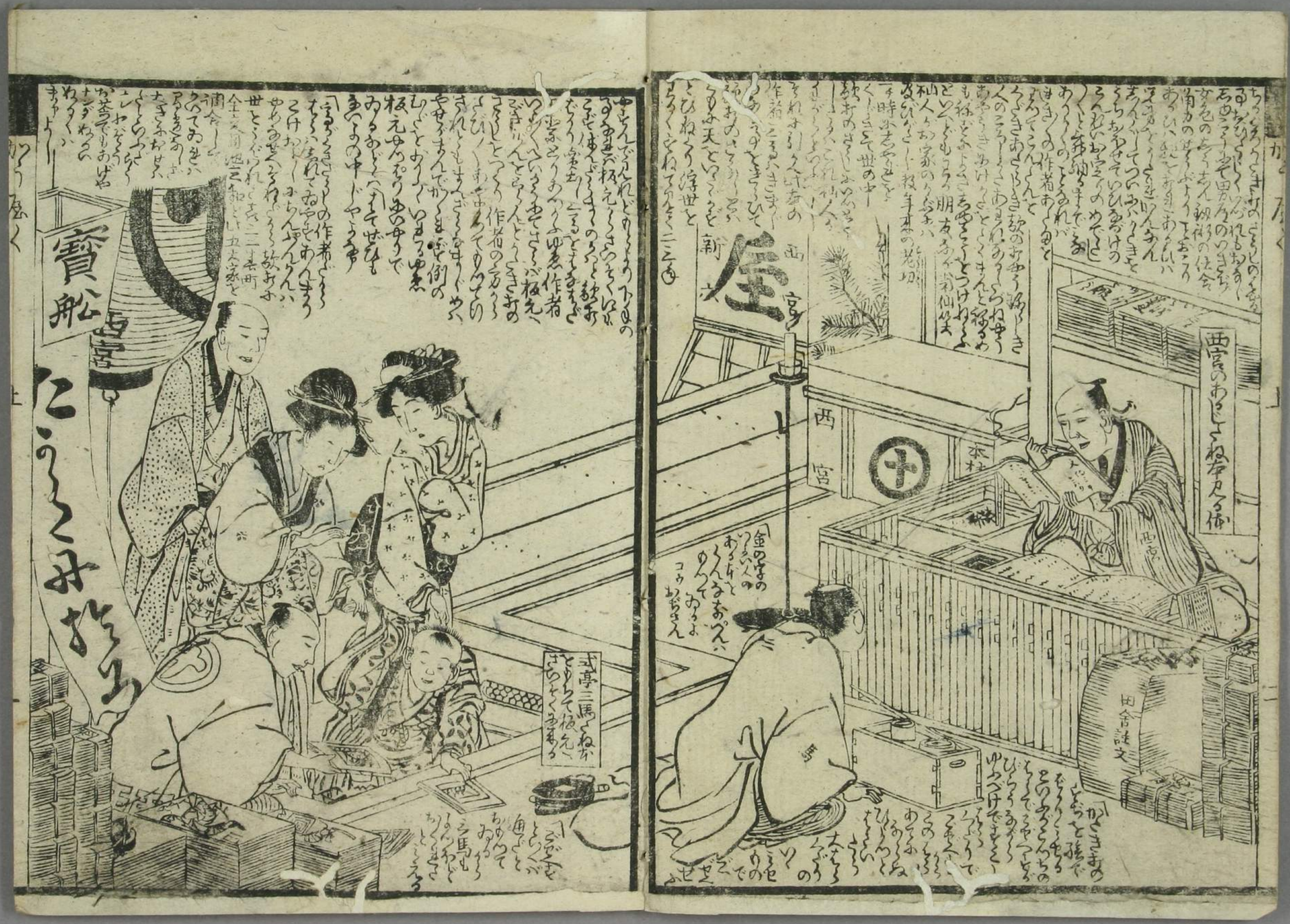
むかうれ趣向でも虚戯作者の戯れ字へ對して面目なしと我意なぞ立ぬく戯作の復讐つまらんと口をたゝけど些やッパり作者が肉股膏薬。趣向を勿論膏薬貫。洒落と若實と両方に其肉股にべつたりさ。ゆへぞのかまぬ親の敵うちます膏薬をも題號して今茲を例の早まかし序で何で叫る支を出かす世志かりけり。

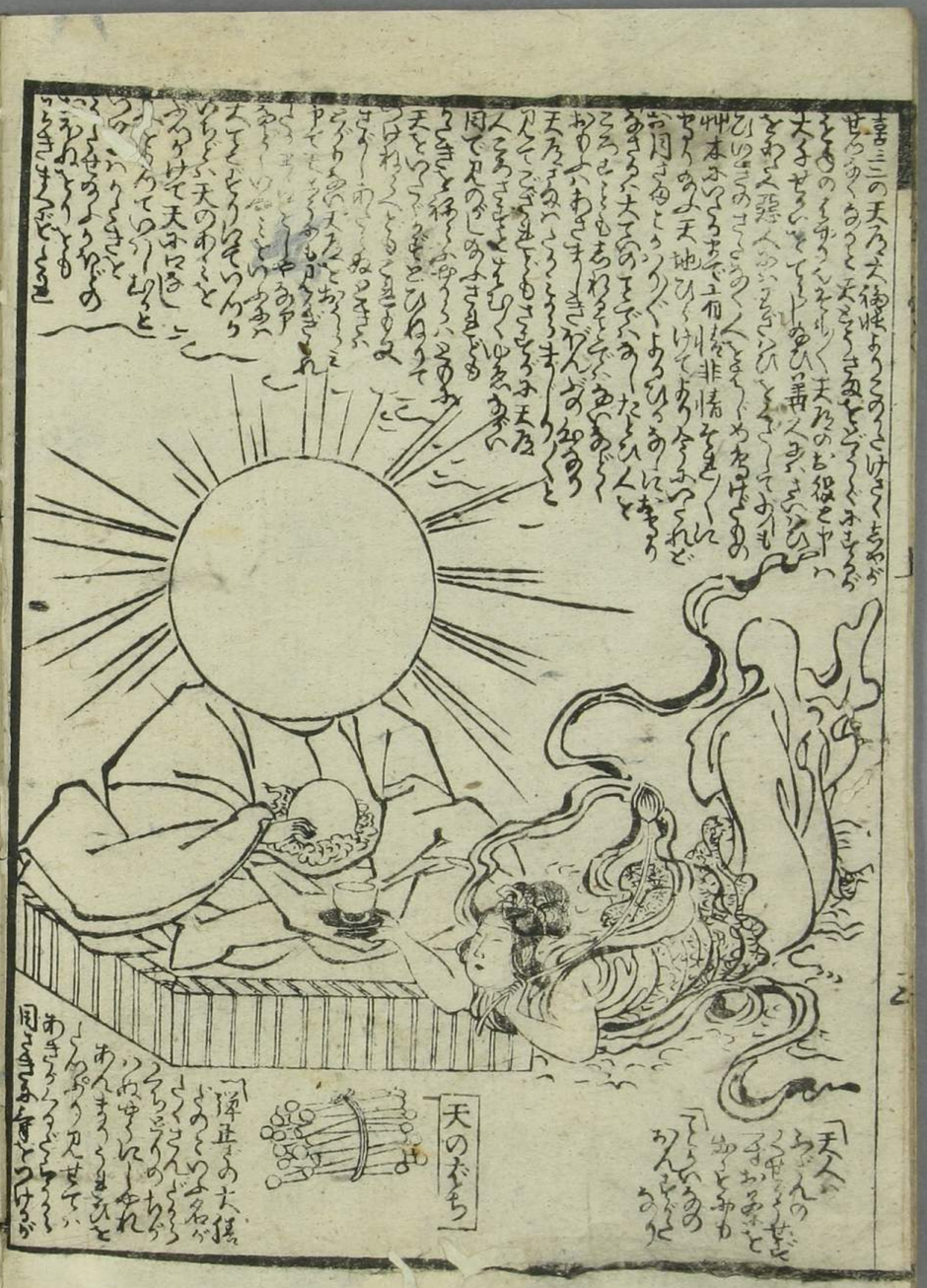
江戸前の市隠と出そてチト老爺めかれども勘平殿と同年なるおとこあそびの山くの息子。

維時文化乙丑歳陬月

式亭三馬戯題

近来草さうしの部なぞ年〻[illegible]下手の紅摺[illegible]かき討は[illegible]見物[illegible]お目[illegible]板元[illegible]趣向[illegible]戯作[illegible]例の通泉市西宮へ一組[illegible]


西宮のあとよとね本乃介
西宮
田舎注文
新作
西宮
寶船
西宮


天のぢち

お星さま歌討の
無動寺へ
天福帳
災
福

復讐言の前生 百上巻 至中冊

運
初
福
初右ゑもんの井に
ちりの井
運
初右ゑ娘ちりの井
運
初右ゑさいご
初
男

上尾中治郎
運さあ〜
運

福
福
運

花放蕊大カ
きせい
周之助
運
丈夫の者敵に対り
やぶれ

上尾中治郎
初ちらしあと相撲

福
運

花形屋八

夫婦の井中治郎と

報恩の現在

梶井求女

運

岩義

義岩屋之助

上尾中治郎

運
運
運
運
福
福
福
りくの弁
求女。夫婦
二世のちん

尾上ゲ長八の一の弁
尾上ゲ長八の一の弁
尾上ちゝ
前生うぶしの
尾上ちゝ

運
運
運

三馬戯作
運
運
豊廣画